

# しらす船曳網の省エネルギー化

漁業生産工学部

## 研究の背景・目的

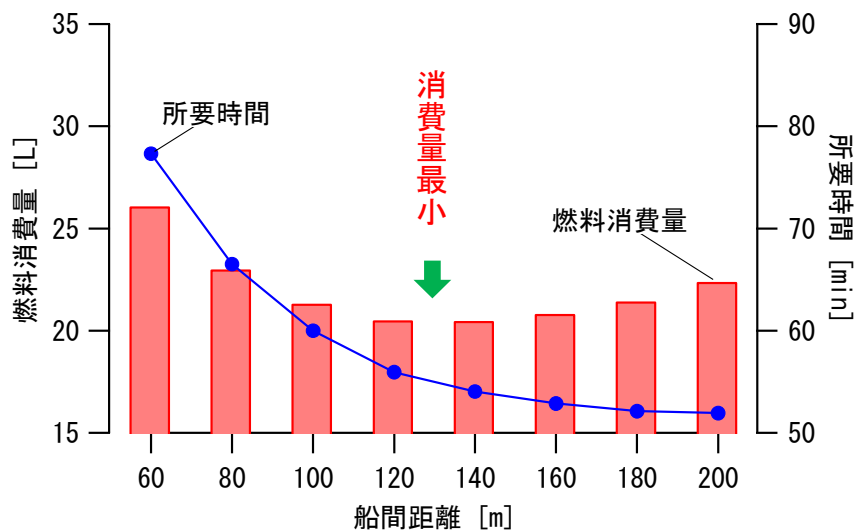
- ・ シラス来遊量は変動が大きいことが知られており、魚価の低迷、燃油価格の高騰に加え、しらす船曳網では漁獲争いに勝つための過剰な装備等が指摘されている。
- ・ 上のような背景から、省エネルギー化のための漁具の運用方法および改善方法を検討することで低コスト化し、漁業者の経営の安定化に資することを目的とした。

## 研究成果

- ・ 漁具シミュレーションツールにより、しらすニそう船曳網の漁具形状や各部に作用する荷重が得られた。
- ・ シミュレーション結果から、浮きとおもりの増減や船間距離の調整などにより、網の入口面積を広く保った状態で省エネルギー化が実現できると考えられた。

## 波及効果

- ・ 漁具シミュレーションツールを用いた本手法は、カタクチイワシを対象としたバッチ網など、他のニそう曳き漁業への応用も期待できる。



各船間距離における基準曳網容積あたり燃料消費量および所要時間の一例  
(船間距離 130mで燃料消費量最小)

(漁具・漁法グループ: 山崎慎太郎, 漁船工学グループ: 長谷川勝男・溝口 弘泰)